



Outline of the Kyoto University Library

京都大学附属図書館概要

2011



Contents

はじめに	1
年譜	2
歴代図書館長	4
組織	5
研究開発室	5
宇治分館	6
主要コレクション	6
フロア案内	8
統計	14
刊行物	16
アクセス	17



1 はじめに

京都大学附属図書館は明治32(1899)年に閲覧業務を開始して以来、今では86万冊を超える蔵書、多くの電子ジャーナルやデータベースを備え、京都大学の学生や研究者の学習・研究活動を支えています。

地上4階地下3層の建物には、1,289席の閲覧席やAV設備を備えたメディア・コモンズ、情報環境機構の教育用コンピュータシステムのPC端末106台などを設置しており、平日一日平均3,000人以上の利用があります。

また、附属図書館は、平成17(2005)年4月に発足した京都大学図書館機構の全学的機能を実施する中核組織として、学生用図書、電子ジャーナルやデータベースを提供していくための全学調整、週及入力を推進するための計画及び実施、機関リポジトリの充実などにも取り組んでいます。

平成20(2008)年10月から平成21(2009)年3月にかけて、「利用者が24時間利用できる学習環境の提供」と「3階の利用者スペースの拡大」を柱とした全館改修を実施しました。この改修により、学内の学生や教員向けに24時間利用可能な学習室(91席)を新たに設置するとともに、飲食可能なコーナー(41席)も設けました。また研究個室(14室)や共同研究室(5室)も増設し、時代の変化に応じた図書館サービスが提供できるよう設備等の整備に努め、学習・教育支援サービス機能の充実・強化をはかっています。





2 年 譜

明治30(1897)年	6月	京都帝国大学創立、附属図書館設置
32(1899)年	12月	閲覧室開室（11日。この日を附属図書館創立記念日とする。）
41(1908)年	12月	「附属図書館商議会議程」制定
昭和 8(1933)年	9月	第2閲覧室開室（法経新館2階）
11(1936)年	1月	第1閲覧室焼失
22(1947)年	9月	京都大学附属図書館と改称
23(1948)年	2月	附属図書館（第二代）竣工
34(1959)年	12月	附属図書館創立60周年記念式典挙行
36(1961)年	3月	「附属図書館60年史」刊行
38(1963)年	12月	開架閲覧室開室
39(1964)年	9月	館報『静脩』創刊
41(1966)年	4月	電子複写方式による文献複写業務開始
58(1983)年	1月	国立国会図書館分類表採用
	10月	附属図書館（第三代：現行）竣工
59(1984)年	4月	閲覧システム導入（業務のコンピュータ化開始）
60(1985)年	1月	バックナンバーセンター（BNC）開設
	4月	調査研究室設置
	6月	NACSIS-CAT（目録システム）に参加
62(1987)年	6月	理工系外国雑誌センター館に指定

平成 2(1990)年	10月	OPAC運用開始
4(1992)年	4月	NACSIS-ILLサービスに参加
5(1993)年	4月	新入生のためのOPACオリエンテーション開催
6(1994)年	9月	「吉田松陰とその同志」電子図書館実験システムによる電子展示
7(1995)年	1月	留学生のための図書館ツアー開始（以後、毎年開催）
	4月	新入生オリエンテーション開始（以後、毎年開催）
	5月	日曜開館開始
	9月	京都大学百年史編集史料室設置（平成15年3月末まで）
8(1996)年	1月	附属図書館ホームページ開設
	4月	研究開発室発足（調査研究室を改組） 遡及入力事業開始
	6月	「今昔物語集 鈴鹿本」国宝に指定
9(1997)年	1月	附属図書館ホームページが国立大学等優秀広報誌等表彰・奨励賞受賞
10(1998)年	1月	電子図書館システム運用開始
	4月	全学共通科目「情報探索入門」（提供部局：附属図書館）開始（以後、毎年開講）
11(1999)年	11月	附属図書館創立百周年記念式典
12(2000)年	1月	共同保存図書館に関する専門委員会設置（平成16年3月まで）
	3月	自己点検評価・外部評価報告書「京都大学図書館 現状と将来への展望」刊行
	4月	宇治分館発足
	5月	中国書のデータ入力開始（5ヵ年計画）
	7月	全学共通科目「情報探索入門」支援活動に国立大学図書館協議会賞受賞
	11月	2000年京都電子図書館国際会議
13(2001)年	1月	古文献資料専門委員会設置
	2月	京都大学図書館システムの在り方に関する検討委員会発足（平成13年7月まで）
14(2002)年	2月	シネマ、CDコンサートを開始（AVホール）（平成16年3月まで）
	4月	外国雑誌等に関する専門委員会設置（平成16年3月まで）
	6月	「幼学指南鈔」重要文化財に指定
15(2003)年	9月	附属図書館中期目標・中期計画（法人第一期）の策定
16(2004)年	4月	「附属図書館商議会」を廃し、「図書館協議会」と「附属図書館運営委員会」に機能分割 MyLibraryシステム運用開始
	5月	AVブースを「メディア・ commons」にリニューアルし、AV資料利用サービスを充実
	9月	学術情報・電子ジャーナルシンポジウム「大学における学術情報資源の整備」開催
17(2005)年	4月	京都大学図書館機構発足
	6月	常設展示コーナー「附属図書館セレクション」開設（平成20年9月まで）
19(2007)年	6月	閲覧席（北エリア）に無線LAN設置
20(2008)年	10月	全館改修工事（11月：一部開館、平成21年1月：「学習室24」開室、4月：全面開館）
21(2009)年	1月	研究開発室に専任准教授配置
22(2010)年	3月	ライブラリーホール改修
	7月	試験期間中の土日祝日の利用時間延長を開始

3 歴代図書館長

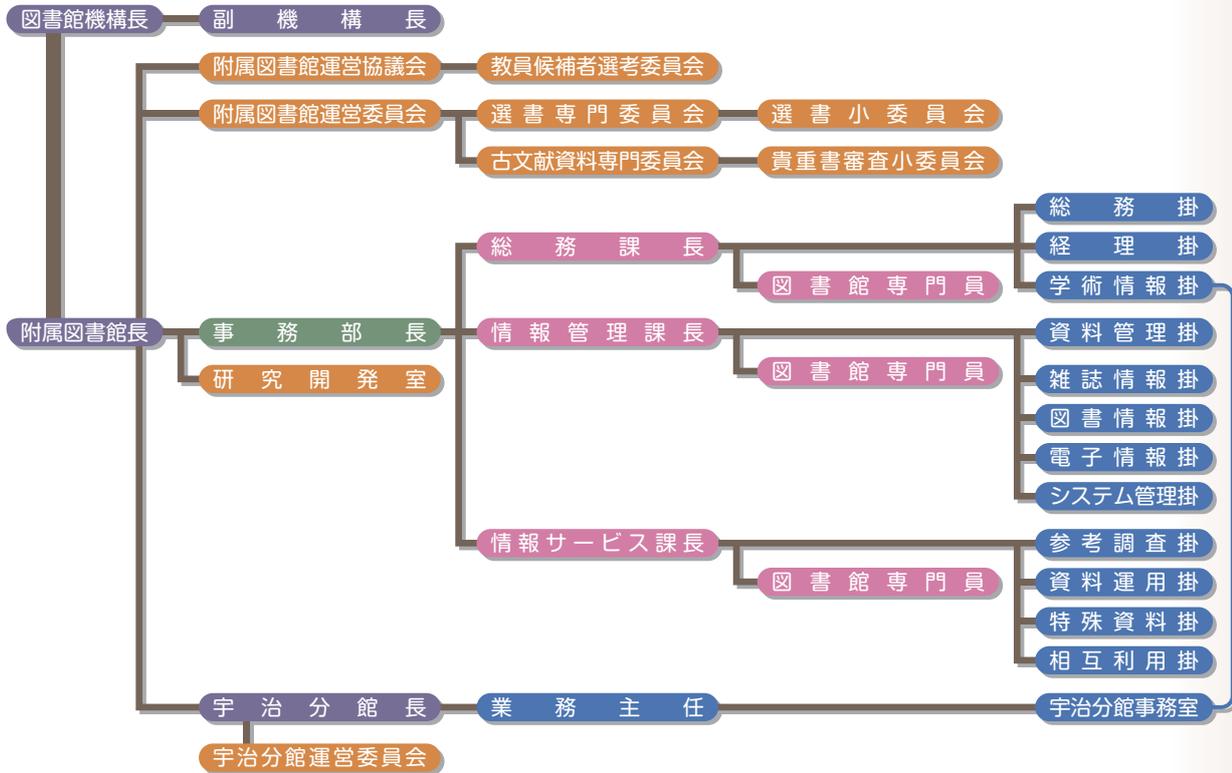
◆ 附属図書館長

	氏名	就任～退任
初代	島 文次郎 (法)	明治32年11月6日～明治43年7月25日
第2代	石川 一 (司書官)	明治43年7月25日～明治44年10月1日
第3代	新村 出 (文)	明治44年10月1日～昭和11年10月19日
第4代	羽田 亨 (文)	昭和11年10月19日～昭和13年11月25日
第5代	本庄 榮次郎 (経)	昭和14年1月17日～昭和17年7月28日
第6代	澤 瀧 久 孝 (文)	昭和17年9月1日～昭和22年5月31日
第7代	原 随 園 (文)	昭和22年5月31日～昭和24年11月8日
第8代	泉 井 久之助 (文)	昭和24年11月8日～昭和32年7月15日
第9代	田 中 周 友 (法)	昭和32年7月15日～昭和38年7月14日
第10代	足 利 惇 氏 (文 事務取扱)	昭和38年7月15日～昭和38年7月25日
第11代	堀 江 保 蔵 (経)	昭和38年7月25日～昭和41年7月24日
第12代	穴 戸 圭 一 (工)	昭和41年7月25日～昭和46年3月31日
第13代	平 岡 武 夫 (人文)	昭和46年4月1日～昭和48年3月31日
第14代	林 良 平 (法)	昭和48年4月1日～昭和57年3月31日
第15代	高 村 仁 一 (工)	昭和57年4月1日～昭和59年3月31日
第16代	西 原 宏 (工)	昭和59年4月1日～昭和61年3月31日
第17代	西 田 龍 雄 (文)	昭和61年4月1日～平成4年3月31日
第18代	朝 尾 直 弘 (文)	平成4年4月1日～平成7年3月31日
第19代	長 尾 真 (工)	平成7年4月1日～平成9年3月31日
第20代	万 波 通 彦 (工)	平成9年4月1日～平成10年3月31日
第21代	菊 地 光 造 (経)	平成10年4月1日～平成12年3月31日
第22代	佐々木 丞 平 (文)	平成12年4月1日～平成17年3月31日
第23代	大 西 有 三 (工)	平成17年4月1日～平成20年9月30日
	大 西 有 三 (理事 事務取扱)	平成20年10月1日～平成20年10月31日
第24代	藤 井 讓 治 (文)	平成20年11月1日～平成23年3月31日
第25代	林 信 夫 (法)	平成23年4月1日～

◆ 宇治分館長

	氏名	就任～退任
初代	杉 浦 幸 雄 (化研)	平成12年4月1日～平成14年3月31日
第2代	池 淵 周 一 (防災)	平成14年4月1日～平成18年3月31日
第3代	佐 藤 直 樹 (化研)	平成18年4月1日～平成22年3月31日
第4代	川 井 秀 一 (生存研)	平成22年4月1日～

4 組織



区分	事務部長	課長	図書館専門員	専門職員	主任	掛員等	合計
職員数	1	3	3	13	1	41 (29)	62

平成23年4月1日現在。宇治分館を含む。()内は再雇用職員、事務補佐員で内数。

5 研究開発室

	所属	氏名	活動領域
室長	附属図書館長	林 信夫	
室員	附属図書館准教授	古賀 崇	●全般
室員	高等教育研究開発推進センター教授	小山田耕二	●情報リテラシー教育・講習
室員	学術情報メディアセンター教授	喜多 一	●情報リテラシー教育・講習
室員	大学院教育学研究科教授	稲垣 恭子	●情報リテラシー教育・講習
室員	情報環境機構 IT 企画室	古村 隆明	●情報システム
アドバイザー	図書館機構副機構長 大学院工学研究科教授	引原 隆士	

6 宇治分館

宇治分館は、平成12（2000）年4月宇治地区5研究所共通図書室を母体にして、宇治キャンパスの各図書室が「附属図書館宇治分館」として一元化された図書館です。

宇治キャンパスは、自然科学系の4つの研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）と宇治キャンパスにサテライトを置く4つの研究部門（工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科）で構成されています。そのため、蔵書は自然科学系の図書と学術雑誌が主体となっています。

書庫は、宇治キャンパスの耐震工事に伴う仮移転期間を終了し、4月から宇治地区研究所本館E棟増築1階 E-136Nで利用を開始しました。仮移転中に各研究所で梱包保管していた雑誌も書庫に収めました。学習閲覧室・事務室は、昨年5月末に移転を完了し、一足早く、研究所本館N棟1階 N-105Nで開館しています。

アクセス



JR奈良線 黄檗駅・京阪宇治線 黄檗駅より 徒歩 約7～10分
From Obaku (JR or Keihan) 7~10min. by walk.

7 主要コレクション

◆ 国宝

今昔物語集 鈴鹿本 巻2, 5, 7, 9, 10, 12, 17, 27, 29 計9冊

◆ 重要文化財

紙本墨書 万葉集 巻16（尼崎本）1帖 平安末鎌倉初期筆写

紙本墨書 古今集注 巻1～15, 17（欠巻16, 17末～20）2帖 藤原教長撰 仁治2年鎌倉中期伝 二条師忠筆

紙本墨書 兵範記 49軸 兵部卿 平信範 長承元年～承安元年

紙本墨書 範国記 1軸 平範国 長元9年 春秋冬記

紙本墨書 知信記 1軸 平知信 天承2年 春記

清原家家学書 34種 紙本墨書

幼学指南鈔 巻7, 22 2帖 [平安末期] 写

◆ 特殊文庫

維新特別資料文庫

吉田松陰の遺墨を中心とし、「奇兵隊日記」や大久保利通自筆「三藩盟約書草案」、平野国臣のこより文字など、幕末から明治維新の勤皇志士達に関係する多数の資料で構成。

大塚京都図コレクション

大塚隆収集による江戸期から近代に至る京都に関する地図の体系的コレクション470余枚で構成。現存する本邦最古の京都市街地図『都記』（通称『寛永平安町古圖』）を含む。

河合文庫	793部(2,160冊)の朝鮮文書類と典籍で構成。文学博士河合弘民が朝鮮史の研究に資するために収集した蔵書。
菊亭文庫	菊亭家家記、特に家業の音楽書を主軸として有職故実に関する文書・記録で構成。西園寺実兼の四男兼季を遠祖とする菊亭家相伝の文書・典籍を収集した蔵書。
旭江文庫	大賀寿吉旧蔵のダンテに関する原典や新聞、雑誌の断簡3,000冊の集書で構成。
近衛文庫	漢籍の他、宇津保物語、落窪物語、大鏡等の古写本で構成。陽明文庫の設立時に、近衛家から3,150冊の典籍が本学に寄贈。
島田文庫	明治時代の仏教学者島田蕃根が島田家伝世の文書記録に、蕃根自身の収書を加えた、図書480点よりなる修験道文献の特異な集成。
蔵経書院文庫・日蔵既刊本・日蔵未完本	京都蔵経書院の旧蔵本で構成。明治38年4月より大正元年にわたって蔵経書院が刊行した『大日本統蔵経』の底本となった仏典類と真宗関係の仏書。
新聞文庫	元大阪新聞社記者中神利人旧蔵の、幕末より第二次世界大戦の初期に至る我が国の諸新聞とその類縁資料で構成。
清家文庫	明経道清原家に伝わった経書ならびに日記・秘伝を中心とした収書で構成。清原家家学書34種は重要文化財指定。うち、孝子伝は本館設立60周年記念事業の一つとして複製し、広く紹介。
谷村文庫	大正・昭和の実業家谷村一太郎旧蔵の和漢書9,200冊の稀書で構成。新村出博士の縁で本学に寄贈され、『光明皇后願経』、『伝桓武天皇写経』など多彩な資料を含む。
陶庵文庫	本学創設当時の文部大臣で、本学の設立に尽力した西園寺公望公爵の愛蔵書680部(8,046冊)で構成。
中井家絵図・書類	京都の宮大工の棟梁中井家の御所、二条城、各寺社の建築関係の図面、古文書、地図など旧蔵資料和書177冊、図面類2,276枚で構成。
中院文庫	中院通規伯爵の旧蔵書、文書記録を含む典籍1,041冊で構成。通村、通勝の万葉集、古今集等の勅撰和歌集をはじめとし、源氏物語、伊勢物語等自筆の訓注、評釈等の精粋な資料を含む。
平松文庫	公家西洞院時慶を遠祖とする平松家伝世の3,100余冊の集書。朝廷の儀式典例、日記に貴重なものが多数。兵範記、範国記、知信記の3点は重要文化財指定。他に眞名字本平家物語を含む。
富士川文庫	明治以前の和漢の医書と江戸中期以後主として幕末期の西洋医学の翻訳書で構成。医学博士、文学博士富士川游が「日本医学史」の編纂のため収集した蔵書。
宮崎市定コレクション	宮崎市定名誉教授旧蔵の地理書と古地図で構成。1561年刊行のヴェネチア版『プトレミー地図帳』、1550年に木版筆彩された『ミュンスターの新世界図』などを含む。
イスパニヤ文庫	イスパニア国最高学術研究会議の配慮により、昭和25年同国政府より寄贈された学術図書1,300余冊で構成。
ロールズ・シリーズ	英国中世の公文書、記録類の集大成724冊で構成。Rolls Seriesと称されるのは、Master of the Rollsの監修のもとに編纂されたことによる。

おもな特殊文庫をご紹介します。

8 フロア案内

1階

床面積	2,319.29㎡
閲覧席数	289席
(内訳)	
学習室 24	132
閲覧席エリア	157
書架棚総延長	1,229.10m



学習室24

学習室24は、附属図書館が閉館した後も、朝まで勉強できるスペースです。京都大学の学内に24時間利用できる自学自習環境を設けることについては、京都大学学生生活白書や総長主催のキャンパス・ミーティングなどで学生から多くの要望が寄せられていました。これを受けて2009年1月19日から24時間利用可能な学習室「学習室24」がオープンしました。「学習室24」は91席の自学自習のできるスペース「自学24」（約210㎡）と飲食・談話ができる41席のスペース「なごみ」からなっています。

学習室24は、利用者の安全を考慮して、入退室する際に必ず学生証あるいは職員証を認証装置に通すようにしています。また、防犯カメラを6か所に設置し、夜間には警備員を配置しています。



エントランスホール

エントランスホール（133㎡）には2階までの「吹き抜け」があります。これは、館内に入ったとき、天井から圧迫感を受けることなく、広く明るい印象を与え、「吹き抜け」から2階の閲覧席エリアへの空間的な一体感を生み出す効果があります。



参考図書コーナー・雑誌コーナー・カード目録コーナー

1階には、参考図書と新刊雑誌・新聞を配置しています。

参考図書コーナーには、体系的・継続的に収集した辞書・事典・書誌・索引・地図類約1万8千冊を配架しています。

雑誌コーナーには、理工学系外国雑誌センター館雑誌や学内部局発行の紀要類、一般誌等を最近3年分配架しています。外国雑誌センター館雑誌とは、学術情報基盤整備を図るために、分野別に国内9大学に配置された拠点図書館において、国内未収集の外国学術雑誌等を体系的に収集・整理・提供する体制のもとで整備した資料で、本学は理工学系の外国雑誌を東京工業大学とともに担当しています。

カード目録コーナーには、本学創設から1985年ごろまでの全学の蔵書の目録を備えています。現在、全学的な取り組みとして目録情報の遡及入力事業を進めています。

2階

床面積	2,168.70㎡
閲覧席数	486席
書架棚総延長	4,359.75m



閲覧席エリア

閲覧席エリアは、フロア全体を間仕切りや段差を作らず、開放的な雰囲気を念頭において什器を配置しています。また、利用度の高いエリアのため、照明の方法、書架位置、閲覧座席の種類と配置について、特に配慮しています。閲覧席は、自然採光を考慮して窓際に設けて、書架はその内側に配置しています。



3階

床面積	2,297.98㎡
閲覧席数	514席
(内訳)	
閲覧席エリア	286
メディア・コモンズ	42
研究個室	14
共同研究室	44
情報端末エリア	128



メディア・コモンズ

メディア・コモンズは、CDやDVDをはじめ多種のメディアに対応できるように設計され、勉強や研究に必要な映像や音声情報を視聴できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を音楽や映像でリフレッシュすることができます。

ガラス張りの240㎡のスペースに、DVDやビデオが見られる個人用ブースが16席、窓越しに時計台や吉田山を見ながらCDを聞くことができる個人用ブースが8席、50インチの大型プラズマ・ディスプレイでDVDを見ることができる4人用AVコーナーが2箇所、合計32席があります。さらに、5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター（防音装置付き、10席）があります。

メディア・コモンズの中には、鑑賞用の資料として、CD6,870点、DVD950点（映画、ドキュメンタリー、音楽ほか）、ビデオ460タイトル（ドキュメンタリー、言語）を用意しています。また1階カウンターで手続きをすれば、利用者自身が持ち込んだ資料も視聴することができます。



研究個室・共同研究室

研究個室（14室）は、大学院生と教員向けに、より研究に専念できる環境として用意した一人用の個室です。附属図書館の3階にあり、各部屋には有線の情報コンセントを設置しています。

共同研究室（5室）は、グループでの共同研究・学習などのために利用できる部屋です。2、3人の少人数から20名まで利用できます。これらの部屋全てには、有線の情報コンセントとホワイトボードを設置しています。またプロジェクター（1台）の貸出を1階カウンターで受け付けています。



情報端末エリア

3階の情報端末エリアには、情報環境機構の教育用コンピュータシステムのオープンスペースラボラトリー（OSL）としてインターネットに接続できる106台のパソコンがあります。また、ノートパソコンを持ち込んでインターネットに接続可能な有線の情報コンセント22口を用意しています。



ライブラリーホール

ライブラリーホールは2010年3月の改修工事により、これまでの固定座席を廃し、最大120人を収容できる多目的ホールになりました。講演会に限らず、会議や展示会などにも使用できます。



4階

事務エリア

(大会議室、小会議室、研修室、研究開発室等)

地下



地下書庫

地下は、2階3層（B1M、B1、B2）の書庫になっています。B2の書庫は、すべて電動式集密書架を配置し、60万冊の収容を可能にしています。このうち40万冊分は「バックナンバーセンター」に充当し、全学的な利用を目的に19部局から移管された雑誌のバックナンバー15,000タイトルを配架しています。

電動式集密書架については、2006年度から3カ年計画で進めてきた改修が2009年3月で終了し、利用上の安全性がより向上しました。更新された機能の一つとして、ブロック毎の通路散開機能があります。この機能は、棚ユニット間に空間をつくり、棚内への通風を確保し空調効果を高め保存環境を保つのに有効に働きます。

また、2010年には全ての照明器具をLEDライトに交換することで消費電力を抑えるなど、環境問題にも配慮しています。



貴重書庫

B1には、国宝や重要文化財を含む貴重書、稀覯本を納めた収容力5万冊の貴重書庫があります。専用の空調設備で常に温度や湿度を一定に保つとともに、天井、壁面、床をすべて板張りになっています。特に壁は、板を固定させない落とし込み構造とし、結露を防ぐ仕組みを施して、湿度の変化に柔軟に応じる「校倉造り」にならったものになっています。また、防虫、防火にも万全を期しています。



総計

延床面積		14,011.25㎡
B	2階	2,353.21㎡
B	1階	2,353.21㎡
1	階	2,319.29㎡
2	階	2,168.70㎡
3	階	2,297.98㎡
4	階	2,262.09㎡
塔屋	階	256.77㎡

書架棚総延長		42,996.15m	
B	2	21,510.10m	
B	1	9,383.82m	
B	1	M	6,513.38m
1	階	1,229.10m	
2	階	4,359.75m	

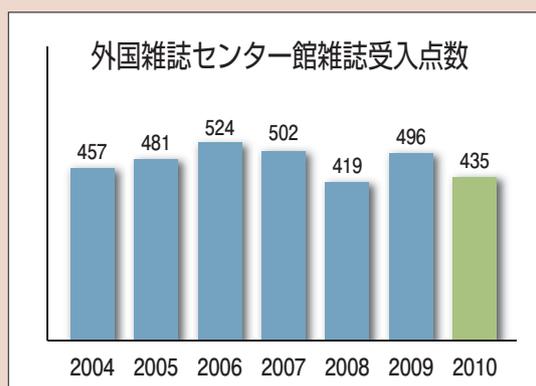
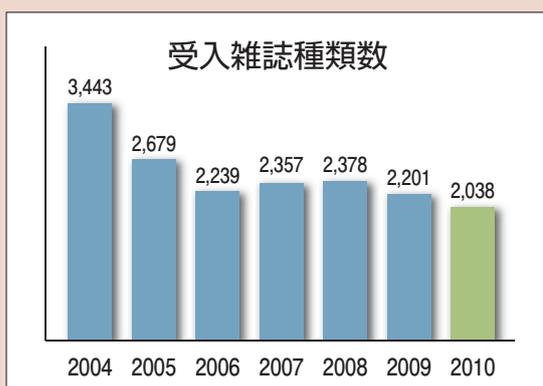
閲覧席数		1,289席
1	階	289
(内訳)		
学習室	24	132
閲覧席エリア		157
2	階	486
3	階	514
(内訳)		
閲覧席エリア		286
メディア・commons		42
研究個室		14
共同研究室		44
情報端末エリア		128

9 統計

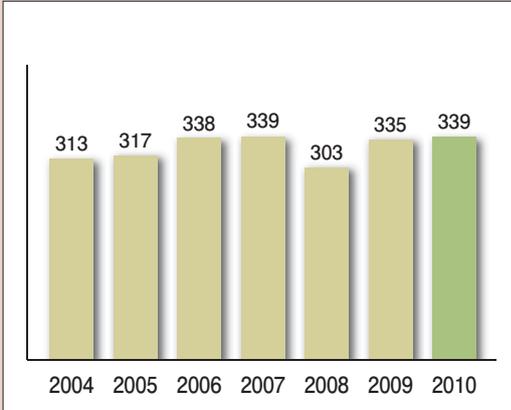
蔵書冊数



受入雑誌種類数



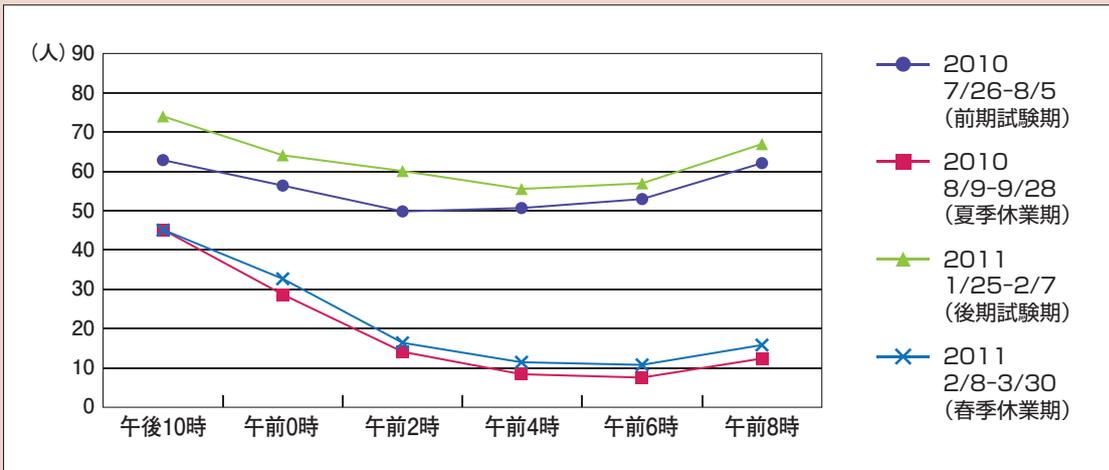
開館日数



入館者数



学習室24 一日平均夜間在室者数



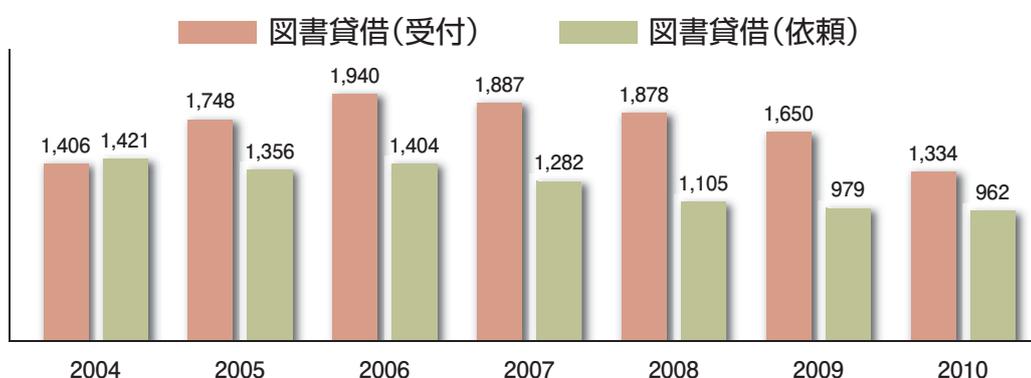
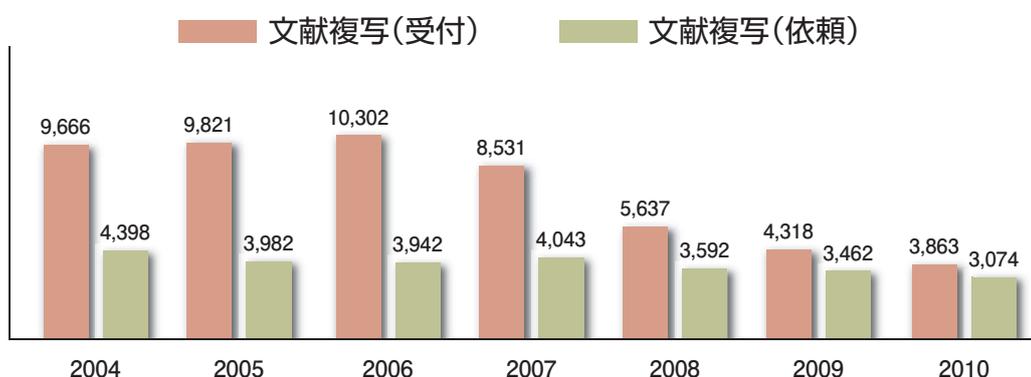
貸出冊数



参考調査件数



相互利用件数



10 刊行物

■2010年度

- 京都大学附属図書館概要2010
- 京都大学附属図書館ニュースレター (Library Service News : LSN)
・ 2010年4月号 (No.180) - 2011年3月号 (No.191)
- 2010京都大学附属図書館 利用案内
・ 日本語版、英語版、中国語版 (簡体)、韓国語版
- 2010京都大学附属図書館へようこそ
(オープンキャンパス用説明資料)



11 アクセス



■ 主な交通機関

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間	下車バス停
JR/近鉄 京都駅から	市バス	京都駅前	206系統 17系統	「東山通 北大路バスターミナル」行 「河原町通 錦林車庫」行	約35分 約35分	京大正門前又は百万遍 百万遍
阪急 河原町駅から	市バス	四条河原町	201系統 31系統 17系統 3系統	「祇園 百万遍」行 「東山通 高野・岩倉」行 「河原町通 錦林車庫」行 「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分 約25分 約25分 約25分	京大正門前又は百万遍 京大正門前又は百万遍 百万遍 百万遍
地下鉄烏丸線 烏丸今出川駅から	市バス	烏丸今出川	203系統 201系統	「銀閣寺道・錦林車庫」行 「百万遍 祇園」行	約15分 約15分	百万遍 京大正門前又は百万遍
地下鉄東西線 東山駅から	市バス	東山三条	206系統 201系統 31系統	「高野 千本北大路」行 「百万遍 千本今出川」行 「修学院・岩倉」行	約20分 約20分 約20分	京大正門前又は百万遍 京大正門前又は百万遍 京大正門前又は百万遍
京阪 出町柳から	徒歩 市バス	(東へ) 出町柳駅前	201系統 17系統 3系統 203系統	「祇園 みぶ」行 「錦林車庫」行 「北白川仕伏町」行 「銀閣寺道・錦林車庫」行	約20分 約10分 約10分 約10分 約10分	京大正門前又は百万遍 百万遍 百万遍 百万遍 百万遍



2011 (平成23) 年7月発行

編集・発行

京都大学附属図書館
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2613 FAX 075-753-2629
<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/>